ボランティアOSAKA

梅林で清掃ボランティア（枚岡公園）

第28号

2002
SPRING

●発行●
(福)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティア・市民活動センター

特集 「総合的な学習の時間」を支える市民ボランティアたち

●市町村ボラ連 Vサイン No.17

梅林の清掃活動に多くの企業人が参加

東大阪市の勤労者マルチライフ支援事業

午前と午後、二班に分かれて梅林を清掃

ペンシルバルーンでイベントに彩りを添える東大阪市のボランティアの皆さん

まず、集合場所の境内で一日のスケジュールのオリエンテーション

枚岡神社の歴史講話に聞き入る参加者たち

去る3月2日の土曜日、東大阪市の枚岡公園で、市民に親しまれている枚岡梅林の清掃活動が行われました。参加したのは、東大阪経営者協会に加盟する企業の社員とその家族、そして東大阪市ボランティア連絡会の皆さんら計130人です。

本誌前号（10頁）でも紹介していますが、東大阪経営者協会では東大阪市ボランティアセンターとタイアップして、勤労者のボランティア活動を促進する「勤労者マルチライフ支援事業」に取り組んでおり、今回の催しはその一環。参加者は二班に分かれて、午前と午後、それぞれ「清掃活動」と「枚岡神社の歴史講話聴講と什宝展見学」の二つのプログラムをこなしました。

多くは「ボランティアは初めて」という人でしたが、それでも手にしたゴミ袋に、火ばさみで拾い上げた空き缶や空き瓶、タバコの吸い殻などをテキパキと集めて、集積場所に持参。「やってみれば簡単。何もボランティアを難しく考えることはなかったんですね」と満足感を語ります。お昼には、境内で名物「梅がゆ」を賞味しましたが、その他、東大阪市ボランティア連絡会の皆さんが用意した生姜湯などの温かい飲み物もふんだんにあり、「至れり尽せりで、なんだか申し訳ないほど」といった声も。

あいさつをする東大阪経営者協会の金子誠二会長

「初めての催しだけに、遠足気分で気軽に参加していただけるよう配慮しました。予想以上の参加者数でしたが、これを機会に、今後とも勤労者が家族連れで気軽に参加できるプログラムをいろいろ企画していきたい」と、この事業のプロジェクトマネージャーである児玉さんは語ります。

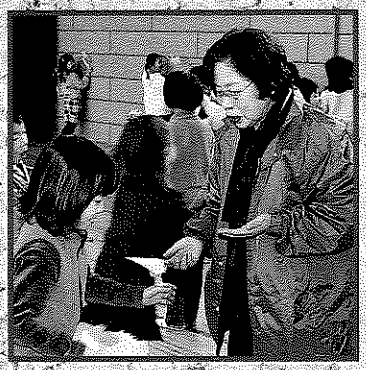
地域の勤労者がボランティア活動に取り組む、大きなきっかけづくりとなった春の一日でした。

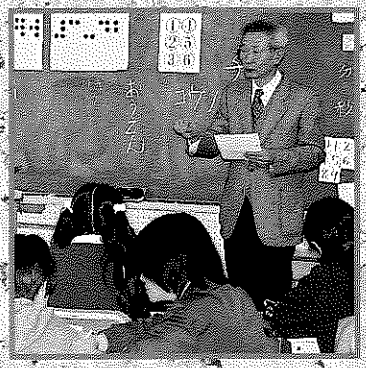
「さっぱりした味でおいしい」と好評の梅がゆ

特集

「総合的な学習の時間」を支える市民ボランティアたち

～地域で育む、子どもたちの「生きる力」～





今春から、いよいよ「総合的な学習の時間」が本格的にスタートします。

これは、これまでの知識詰め込み型の教育から、子どもたち自らが学習課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどを目的としたもので、小・中学校では今春から、高校でも来春からすべての学校で取り組まれるものです。

具体的には、ボランティアを含めた福祉学習、世代間交流、自然観察や環境学習、異文化理解や人権教育、さらに職場体験や商人（あきんど）体験など、従来の教科にはないさまざまな分野の中から、子どもたちが興味を示すものを選び、各学校で自主的に企画・実践されるというものです。

それだけに、これを進めていくためには、地域社会の理解と協力が不可欠だと言われています。なぜなら、地域社会には総合的な学習の時間を進めていくに際しての「生きた教材」が溢れているからに他なりません。地域社会には、お年寄りもいれば障害者もいます。汚れた河川があれば、障害者の移動を阻むさまざまなバリアもあります。また外国人もいれば、いろいろな福祉施設もあります。リサイクルや有機農業に取り組んでいる人たちもいるかも知れません。もちろん会社もあれば商店街もあり、町の歴史を示す文化史跡などもあるでしょう。ことほどさように、地域社会には「生きた教材」が溢れているわけです。

というわけで、すでに数年前から、いくつかの学校では地域社会の協力を得ながら「総合的な学習の時間」に先行的に取り組んできました。いわば、学校を地域がサポートし、子どもたち一人ひとりが「生きる力」を身につけていく…そんな取り組みが大阪府内でもすでに始まっています。そこで今回は、学校現場の「総合的な学習の時間」を支える、市民ボランティアの活動を紹介しましょう。

車いすバスケットで小学生と交流

●車いすバスケットチーム「福籠会」

「福籠会」は、障害者と健常者が一緒に車いすバスケットボールをするという一風変わった車いすバスケットチームです。発起人であり会長を務めるのは関西福祉科学大学4回生の大内秀之さん（22歳）。約10年前からこの競技を始め、今や全国大会を目指すほどの実力選手の彼が、昨年11月、大学の友だちや競技仲間と一緒に作ったのがこのチームなのです。

「健常者と障害者が一緒にいると、やっぱり”ボランティアする人とされる人“っていう目で見られることが多いんですけど、でもそれって違うと思うんです。障害があるとかないとかは関係なく、純粋に友だちと一緒にスポーツを楽しみたい。それだけなんですよね。だからみんなで一緒に競技できるチームを作ろうと思ったんです」と元気な口調で話します。

まずは基本プレイの練習から

福籠会結成の1か月ほど前、大内さんは柏原市社協の引き合わせで、大学の近くにある柏原市立堅下南小学校を訪れました。同校では6年間を通じて地域や社会への理解を深めるためのカリキュラムを実施しており、その集大成とも言える6年生の総合的な学習「福祉～心がかよう交流をめざして～」の一授業として、車いすスポーツの体験授業が計画されていたのです。

「単元名が象徴するように、この授業では実習や体験から生まれる人との出会い、ふれあいに重きが置かれています」と、同校の中谷久子教頭。各学年で環境調査やぶどう栽培体験など各種のテーマが設けられていますが、それぞれ地域や関係機関の人たちがさまざまなかたちで協力。「農家の方や点訳ボランティアの方が指導に来てくださったり、福祉施設が児童の訪問を受け入れてくださったり。もちろん社協や福祉委員さんにもひとかたならぬお世話になっています」と話します。車いす体験の授業計画にあたっても、「校内や校区での車いす体験だけでは、障害のマイナス面にばかり目がいくのでは」と考え、「もっと前向きな生き方やそこから生まれるパワーを子どもたちに感じてもらいたい」と、車いすスポーツの体験ができないかと社協に相談し、この授業が実現しました。

「福籠会」のメンバー。前列中央が大内さん

事前に社協で打ち合わせをすませ、いよいよ当日。大内さんと仲間たちが、数台の競技用車いすを携えて同校にやってきました。短い話と説明の後、児童たちもさっそく車いすバスケットに挑戦しますが、ほとんどの子が車いすに乗った経験もなく、ましてやそれを操ってのバスケットボールなど生まれて初めて。思い通りに曲がれないばかりか、バランスを崩して車いすごと転倒する子もいます。そして、簡単そうに見えた車いすの操作が実はとても難しいことが実感されるにつれて、子どもたちの大内さんを見る目が変わっていきました。最初は少し遠い存在だった「車いすのお兄さん」から、「すごいお兄さん」「めっちゃバスケ上手なお兄さん」という畏敬の対象へと。

「単なる車いす体験だと、障害に対して”大変“”かわいそう“と思ってしまったかもしれない。でもスポーツを通して出会って、一緒にプレイできたことで、そうじゃない関わり方ができたんじゃないかと思います」と大内さん。中谷教頭も「一緒に楽しめるからこそ、大内さんのすごさが実感できた。同じ人間として、年齢や障害の有無といっ

車いすバスケならではの楽しさに触れる児童たち

たいろんな差を超えた対等なふれあいができた。同時に子どもたちがすぐに競技に馴染む姿には、子どもの吸収力のすごさを感じました」と、この体験学習から得たものの大きさを語ります。

そして両者の「一度きりの出会いに終わらせたくない」という思いから、その後、同校で給食会を開き大内さんを招待したという後日談も。たった一度の授業ボランティアをきっかけに、まさに〝心がかよう交流〟が実現。普段の授業では得られない「何か」を、子どもたちは大内さんから学び取ったようです。

最後は対抗試合で盛り上がりました

市と市民の連携で、子どもたちの環境学習を支援

●八尾市生活排水アドバイザーの皆さん

大阪府八尾市には、玉串川や恩智川など、八つの河川が流れています。昔はメダカやホタルなどが見られるぐらい美しかった川も、生活排水などによる汚染は年々ひどくなる一方でした。

「平成2年、水質汚濁防止法の改正を受け、平成4年、八尾市は東大阪市、柏原市とともに、生活排水対策重点地域の指定を受けました。下水道の整備等に努めるとともに、整備に時間を要する地域について、平成9年度から小型合併浄化槽の設置費補助制度を設けるなど、生活排水対策等の推進に取り組んできました。またそれらと並行して、市民の視点から水質改善の啓発活動を実施していただいているのが、生活排水アドバイザーの皆さんです」と同市環境部環境保全課の小沢日出子さん。

アドバイザーは広報紙などで公募し、市からの委嘱を受けた市民で構成。現在、30代～70代までの主婦を中心に20名が活躍中です。任期は2年間。その活動内容は幅広く、子どもたちへの環境学習支援を始め、アンケート調査や一般市民への啓発、さらに効果測定や広報活動を行っています。数々の環境イベントにも積極的に参加し、そこでも「パックテスト」と呼ばれる水質テストの紹介やパネル展示などを行い、生活排水対策を通じて水質改善を市民に呼びかけています。

こうした中、学校で子どもたちに話をする機会も増えてきました。

「小中学校での環境学習支援は、かなり以前から必要性を感じ教育機関にご提案してきました。しかし当初はなかなか受け入れてくださる学校が少なかったのですが、ここ数年、『総合的な学習の時間』の導入に向けての取り組みが活発になってきてからは、逆に依頼されるケースが増えてきました」とアドバイザーの砂田八寿子さん。八尾市には小学校が29校、中学校が15校ありますが、昨年度24の小中学校で、環境学習の支援活動を実施してきたとか。

この活動は、河川での水質調査や植生物調査など、フィールドワークが中心。一地区につき7～8名のメンバーが小中学校へ出向き、児童や生徒にひと通りの説明を行ったあと、近隣の河川で子どもたちと一緒に川の中に入って水の状態や植生物の観察をします。

「河川の汚染は、約80%が生活排水によ

アドバイザーの説明を一生懸命聞く子どもたち

市民に好評だった
エコ・リバーカレンダー

るもの。そのため、フィールドワーク以外にも家庭科室で調理実習をしながら、油の処理の仕方や食器の拭き取り洗い、生ゴミの処理の仕方などを教え、生活排水がいかに河川を汚染するかを子どもたちに伝えています」と砂田さん。こうした活動は着実に子どもたちの間に浸透しているようで、なかには家に帰ってからおかあさんに、「ゴミくずや汚れた水を流しちゃいけないんだよ」と注意する子もいるとか。

また市民の理解をさらに深めるために、昨年は「エコ・リバーカレンダー」を作成し、市内の13000世帯に配布しました。このカレンダーには、『ビールや清涼飲料水、おみそ汁の残り汁などは、流さないようにしましょう』…といった〝一言エコ・アドバイス〟や、河川の汚染について問題提起するコメントなどが楽しいイラスト入りで紹介されています。子どもだけでなく、おとなが見ても感心するほど充実した内容で、好評だそうです。

このように、生活排水対策に関するさまざまな働きかけが功を奏し、活動開始以来、BODという水質調査値による川の汚れは、36%も減少。

取材当日は6名のメンバーに集まっていただきましたが、皆さん口々に、「この活動を通じて、子どもたちとふれあえることがとにかく楽しい！」とおっしゃいます。アドバイザーのひとり西川典子さんは、「フィールドワークに出かける前の説明でも、子どもたちはみんな飽きることなく素直に私たちの話を聞いてくれます。先生の授業とはまた違って、『近所のおばちゃんから楽しいお話を聞いている…』といった感覚なのかもしれませんね（笑）」。メンバーは子育てが一段落した人が多く、皆さんそれぞれに自分の子どもに接するような気持ちで対応しています。「子どもたちは、関心が深まるたびに瞳がいきいきと輝き、私たちも一緒に体験することで、学ばせてもらうことがたくさんあるんですよ」とも西川さん。

また75歳という高齢で活躍する山下喜美子さんは、「昔は当たり前のようにできた川遊びや魚釣りが、いまの子どもたちには、ほとんど体験できません。自然に親しむ体験が少ないからこそ、環境を保護するという感覚も薄れていってしまうのではないでしょうか。いままでの活動を通じて、子どもの頃の純粋な眼で、自然のなかでの体験を積むことの大切さ痛感しています」と話します。

八尾市生活排水アドバイザーの皆さん

環境保護についての考え方は、おとなの認識が子どもへと伝わるもの。こうした子どもたちへの学習支援は、環境問題全体を考える上でも欠かせない取り組みのひとつと言えそうです。

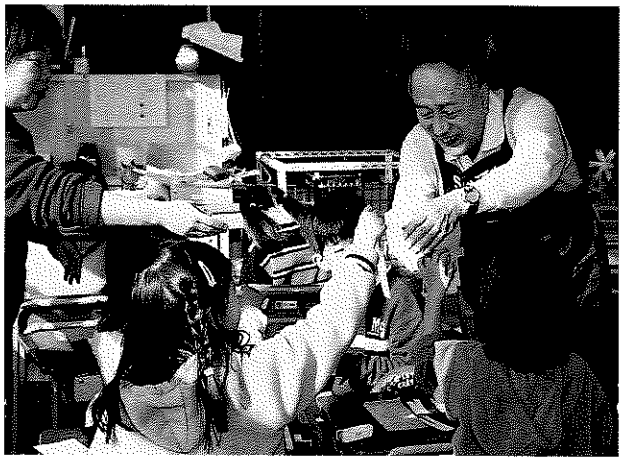
「伝承玩具づくりの指導と交流」で学校の社会教育に貢献

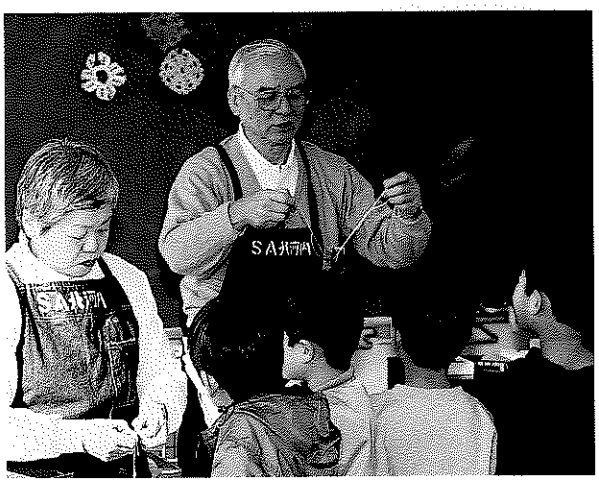
●シルバーアドバイザー北河内地域の会（SA北河内）　飯田　洸さん

シルバーアドバイザー北河内の会（SA北河内）は、大阪府シルバーアドバイザー養成講座の修了生のうち、大阪府北河内地域に在住する26名のメンバーにより構成されているボランティアグループ。結成して5年目を迎える同会では、幼稚園や小学校、地域の自治体の催しや老人会などでの伝承玩具づくりの指導を通じた交流をはじめ、老人ホームや福祉施設での歌体操や演芸、器楽演奏などによる高齢者との交流、在日外国人の学校や各施設に出向いて異文化交流を図るなど、実に多彩な活動を繰り広げています。

とくに伝承玩具づくりの指導と交流については、子どもたちの健全育成には必要不可欠であると考え、同会が積極的に力を注いでいる活動のひとつ。その意義について、同会の飯田洸さんはこう話します。

「テレビゲームやパソコンゲームなどが氾濫し、しかもお金さえ出せば気軽にモノが手に入る環境にある今の子どもたちは、自らおもちゃを工夫して遊ぶ本当の楽しさを知りません。また自分でつくる喜びや楽しさを知ることは、〝何でも自分でやれるんだ〟という自主性や意欲を育むことにも繋がりま





す。こういったことが、モノにあふれた現代の子どもたちには決定的に欠けているのではないでしょうか。核家族化と少子化が進み、地域社会での関係が稀薄になっている現代では、上級生が下級生につくり方を教えたり、教えられたりする機会は少なくなってきています。また、地域のおじいちゃん、おばあちゃんにおもちゃづくりを習うことで、高齢者と子どもたちとの世代間交流が広がり、そこから子どもたちが、世の中にはいろんな人がいて、こうした人たちの集まりで社会が成り立っているんだということを気づく第一歩になるのではないでしょうか」。

これまでの伝承玩具づくり指導と交流活動は幅広く、門真市内や枚方市内のいくつかの小学校で正規の授業に組み込んだり、地域の小学校のPTAが主催するさまざまなイベントでも実施してきました。竹とんぼやブーメランなど、日頃手にすることが少なくなったこれらのおもちゃをつくりながら、最初は怪訝そうな表情で取り組んでいた子どもたちも、だんだん目が輝いてくるといいます。

「自分が一所懸命心をこめてつくったものには愛着が湧きますから、モノを大切にするということを学習するいい機会にもなるでしょう。そのおもちゃを使って運動場や体育館などの広い場所でみんなで遊ぶ体験は、殺伐とした現代社会に育つ今の子どもたちにとって、健康的で楽しい『心の癒し』の時間になることは間違いありません」とも飯田さん。

今年度より学校完全週5日制が導入されるにあたり、児童の土曜日の過ごし方についてさまざまな問題点が議論されていますが、「そのためにも学校と地域との連携をより強固なものとし、私どものようなボランティアグループの力を大いに活用していただきたいですね」と最後に飯田さんはつけ加えました。

視覚障害者への理解を深める体験学習

●大阪府視覚障害者協会河内長野支部　田村　英雄さん
●河内長野点訳サークル

当事者の話を聞き、立場や気持ちを理解する

河内長野市立楠小学校では、「総合的な学習の時間」の本格的導入に向け、「豊かな心を育てる～伝え合う力をのばそう～」というテーマで、車いす体験やアイマスク体験、高齢者や障害者施設への訪問・見学など、各学年ごとに、さまざまな体験学習に取り組んでいます。1月21日と22日は、4年生の児童を対象に、視覚障害者への理解を深めるふたつの体験学習が行われました。

まず、21日に行われたのが、視覚障害者の生活体験談の聞き取り学習。障害を持ちながら河内長野市内でボランティア活動に取り組む田村英雄さんが招かれ、子どもたちに話をしました。田村さんは現在、奥さんが営む手芸用品のアトリエの仕事を手伝いながら、大阪府視覚障害者協会河内長野支部の支部長として活躍中。グラウンドゴルフ大会やカラオケ大会、俳句会、ハイキングなどの行事や会員訪問などの交流活動のほか、地域の仲間たちとともに、内に閉じこもりがちな視覚障害者の心のケアに積極的に力を尽くしています。また要望があれば、市内の小学校に出向き、今回のような聞き取り学習を支援しています。

田村さんが同校の児童に話をするのは、昨年の5年生の取り組みに続き、今回で2度目。「これからオッチャンが、視覚障害の人についてのいろんなお話をしますから、みんな最後までおりこうさんで聞いてな」。「はあい！」。多目的ルームに集まった4年生児童たちの元気な声が、部屋じゅうに響きわたります。

起床から着替え、食事の時間、外出するときの様子、障害者スポーツのことなど、毎日の暮らしぶりをユーモラスな口調で話す田村さん。点訳された

子どもたちに、ご自身の生活体験を話す田村さん

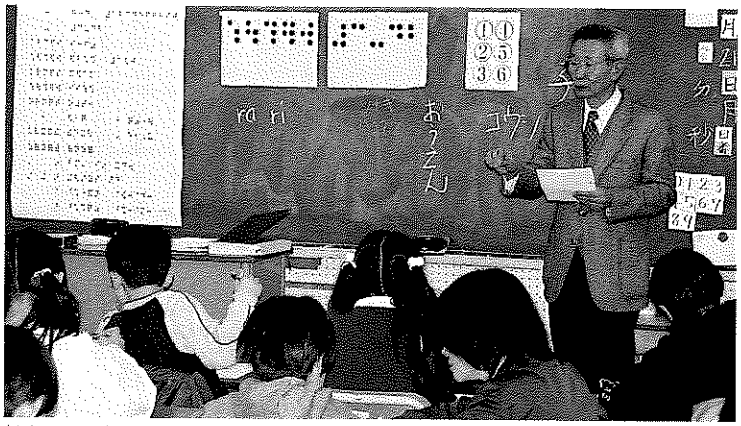
読み物や音声時計、杖、障害者スポーツ向けに工夫されたボールなど、普段愛用している物を子どもたちに見せ、実際に触れさせながら、視覚障害者の生活についてやさしく説明します。そんな田村さんの話に、みんなの表情も真剣。なかには「目が見えなくて、今までいちばん怖いと思ったことはなんですか？」と活発に質問する子も。田村さんは、こうした質問に、わかりやすく応えます。そして最後に「町で障害者の人に会ったら、特別なことをしてあげられなくても、『元気でがんばってください』と声をかけてあげてください」というひと言を添え、この時間は終了しました。

6年前、56歳の時に病気で中途失明となった田村さん。一部上場企業の営業マンとして多忙な日々を送り、55歳で定年退職。嘱託社員として新たなスタートを切ろうとしていた矢先のできごとでした。病気の原因が特定できず、これといった治療法もなく、医師から下された診断は、"視野がなくなれば回復不能"。「一時は失意のどん底に陥り、生きる希望を失いかけました」と当時の心境を振り返ります。しかし、そんな彼を救ったのは、奥さんの励ましや、生活訓練のために入所した視覚障害者のリハビリテーションセンターで知り合った訓練生の仲間たち、それに訓練修了後に地域で出逢った人たちとの心のふれあいだったといいます。重度障害の認定を受けてからは、ガイドヘルパー派遣制度も利用するようになり、外出やスポーツなど行動範囲も広がりました。「人の心の温かさと、地域の取り組みのおかげで、私は充実した第二の人生を送っています。ですから今度は、私が人や地域に何か役立つことがしたい。私には子どもがいませんが、こうした活動を通じて子どもたちとふれあえることがとても楽しいですね」と田村さんは話します。

体験することで、新しい気づきを

ふたつめは、ボランティアグループ「河内長野点訳サークル」による点字学習。同サークルは市の広報紙の点訳などに取り組んでいますが、今回は代表の宮田信直さんが、2日間にわたり5クラス全員の児童に点字の基礎を教えました。

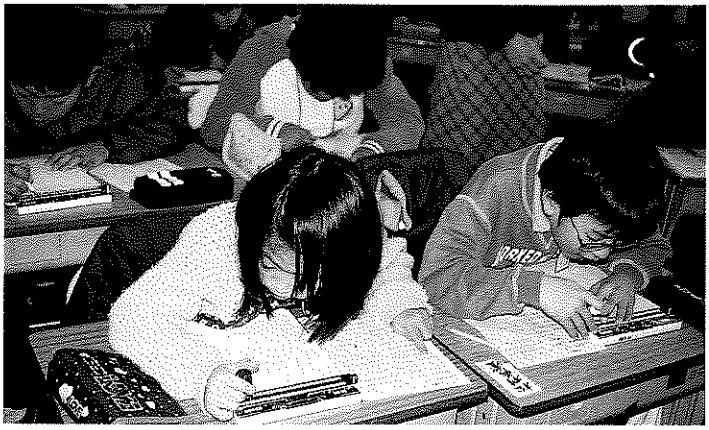
点訳ボランティアとして20年近くも活動を続け、各地のサークルで点字の講師を務めた宮田さんですが、小学生に教えるのは今回が初めて。「子どもさんでも理解しやすいように、オリジナルの点字表を工夫したんです」と黒板に貼った点字表をもとに、基本のアイウエオから一つひとつ丁寧に説明していきます。宮田さんの話を聞きながら、配られた練習用プリントに一生懸命書き込みをする子どもたち。そばについているサークルのメンバーが、「ここ、わかる？」と、一人ひとりにやさしく声をかけていきます。ひととおりの説明が終わり、最後は点字板の登場。この日は自分の名前を打ち込む練習をしました。「あっ、まちがっちゃった！」「できた、できたよ！」と初めての体験に子どもたちは大はしゃぎ。終業を知らせるチャイムが鳴ると、「せっかく打つのに慣れたところだったのに。もっと続けたかったなあ」と少し残念そう。でも「楽しかった！」と自分の手で初めて打った点字用紙を、得意げな顔で見せる子もいました。「今回の体験を通じて、視覚障害者への理解が深まり、子どもたち自身の気づきのきっかけに



基本のアイウエオから、点字学習は始められました

なれば嬉しいですね」と宮田さん。

体験学習を終えて、4年生担任の甲谷美和子先生は、「最近の子どもたちは周囲のことを理解したり、コミュニケーションの方法を学ぶ機会が少ないので、地域の人たちとの交流を通じて、人の話をきちんと受け止め、自分の思いを正確に伝えることのできる相互理解力を育てたい。それが、周囲のことを他人ごととして捉えず、自分自身のことに置き換られる豊かな心を育くむのです」と話します。「総合的な学習の時間」が開始する今年度は、地域と連携したこうした活動が、ますます活発になりそうです。


熱心に点字板の練習をします

地域社会はもう一つの教科書であり、先生です。

ファミリー・ボランティア・フェスティバルで角田禮三・大阪工業大学教授が講演

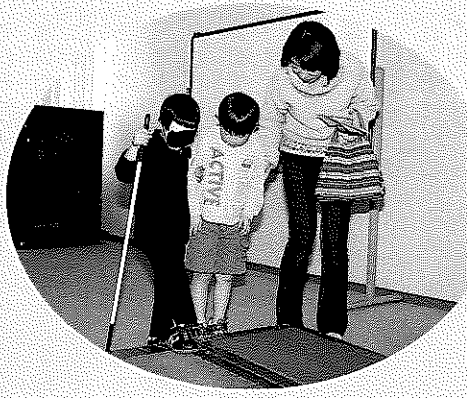
昨年、豊中市では「総合的な学習の時間」を地域で取り組むべきものとして、学校と地域がいかに協力していくべきかを考える「『総合的な学習の時間』指導者養成セミナー」を開催しました。その取り組みに続き、今年は八尾市で「家族ぐるみのボランティア活動」を呼びかけるファミリー・ボランティア・フェスティバルが、2月16日、八尾市文化会館（プリズムホール）で開催されました。

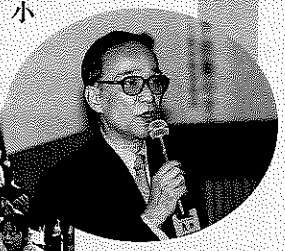
この日、柏原市立堅下南小学校の中平好美先生らによるパネルディスカッションに先立ち、大阪工業大学教授で八尾市教育委員でもある角田禮三氏が講演し、ファミリー・ボランティアの効用などについて話されました。

角田教授は、①家族とのコミュニケーションが豊かになる、②家族で問題を解決する力が向上する、③思いやりや社会的責任感が芽生える…などの効用を説明した後、「地域社会はもう一つの教科書であり、先生です」と学校が積極的に地域と交流していくことの重要性を強調。学校からさまざまなメッセージを発信し、学校からの地域づくり、まちづくりの必要性について語りました。

続くパネルディスカッションでは、地域ぐるみで学校運営に取り組んでいる東京都小平市の小平第二小学校の山下敏夫校長から、積極的に市民ボランティアの協力を得ながら「総合的な学習の時間」に取り組んでいる先進的な事例が報告されました。

当日は、親と一緒に大勢の子どもたちも参加。紙芝居でバリアフリーについて学習したり、大阪工業大学ボランティアサークルのお兄さんお姉さんたちとゲームをしたり歌を歌ったり…と楽しいひとときを過ごしました。





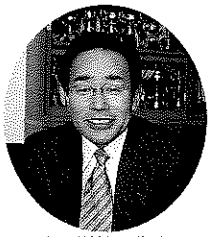
地域に開かれた学校にしていくためには、ボランティアの存在が不可欠。

大阪狭山市立南中学校

大阪狭山市立南中学校では、「総合的な学習」の時間や「選択授業」などで、数年前から大ぜいのボランティアが授業を担っています。

2年生（127人）の「総合的な学習」の時間では、「障害」者問題学習をテーマに、大阪狭山市社会福祉協議会・ボランティアセンターのボランティアグループが協力。車いすやアイマスク体験、シニア器具を装着して高齢者疑似体験など、2時間の授業が行われました。また、昨年度の選択授業では「ボランティア」をテーマに、「ボランティアって何？」、レクリエーション指導のしかたや手話など前後期各11回にわたって延べ300人ほどのボランティアに支えられて授業を実施。

「当初はボランティアの方が授業をすることについて、教師にとまどいがありました。しかし授業の趣旨を明確にし、十分に相互で話し合った上でお願いすることでスムーズに授業が行われ、教師自身も学ぶことが多かったようです」と、森洋校長先生は話します。


森　洋校長先生

主に、授業を担当するボランティアは、ボランティアセンターをはじめ、大阪府や大阪狭山市の人材バンクに登録されている中から学校が選任。これまでに、「総合的な学習の時間」での、戦争体験の聞き取り、音楽の授業での琴の演奏（三曲協会）や選択授業でのゲートボールの指導（ゲートボール協会）、技術家庭の授業でのエンジンの分解と組み立て（ホンダ学園）、課外活動ではテニスや卓球、吹奏楽など、多岐にわたる指導が行われました。

さらに、選択授業として「パッチワークの制作」を、同校のPTA有志が担当し、毎回10人前後の保護者が1年間にわたり24回の授業に参加。

パッチワークの制作を指導したPTA有志のみなさん

「手を動かしながらいろんな話をするなかで、私自身、わが子に接するときのよい勉強をさせてももらいました」と、代表の長浜久美子さん。また、「先生でも親でもない、ただの〝おばちゃん〟という立場がよかったのか、だんだん心を開いてくれたのがうれしかった」と、木田富子さんが話すなど、単に技術を指導することにとどまらず、子どもたちにとっての良き相談相手にもなったようです。

「とても熱心に指導してもらい、子どもたちにも好評で、ときには補習授業もしてくださった。14年度からは各学年とも、年間100時間の『総合的な学習の時間』があり、これまで以上にボランティアのみなさんの力を借りて、それぞれ専門分野の知識や技能をご指導いただきたい。これからの学校運営には地域の皆さんの援助が不可欠。いろいろな視点で教師や生徒を見てもらうことで、より開かれた学校、地域に根ざした学校にしていきたいと考えています」と、森校長先生。

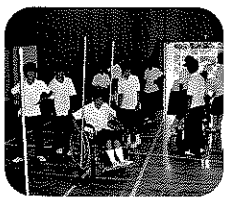
現在、南中学では「総合的な学習」の時間のカリキュラムづくりがすすめられていますが、「人権学習」や「進路」「国際理解」などをテーマに授業が行われる予定。これからも〝さまざまなボランティア先生〟の活躍が期待されています。

ボランティアに指導を受けた生徒の感想文（一部）

＊総合的な学習の時間　「障害」者問題学習（2年生）

「耳が不自由な人」の体験

「見えているからいい」と思っていた。でも、それぞれの障害には危険がいっぱいなんだとわかった。



「車いす」体験

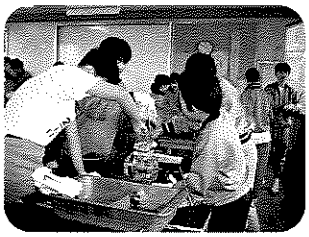
すごく怖い。いつ浮くかわかれへんし、介助してくれる人とのコミュニケーションが大事だ。

「シニア器具装着」体験

若い身体っていいなぁと思った。おじいさん、おばあさんはすごくたいへんなんだなと思った。

＊技術・家庭の授業

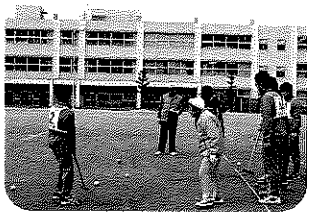
エンジンの分解と組み立て（2年生）



すっごく細かいところまで分解して、また元通りになるのか心配でした。最後にエンジンがかかったときはうれしかった。

＊選択授業　ゲートボール（2年生）

最初はわからなかったけれど、親切に教えてもらい、みんなで楽しく試合ができました。ルール違反したときは厳しく、ていねいに教えてもらい、ちゃんと試合ができるようになりました（後略）



Hello! ボランティアセンター

柏原市ボランティアセンター

柏原市大県4-15-35　柏原市立健康福祉センター内
TEL　0729-72-6786
FAX　0729-70-2173

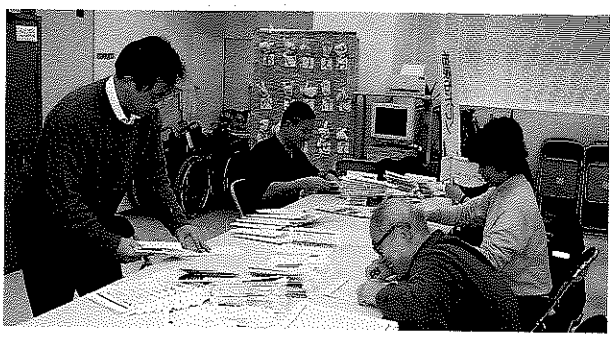
先駆的な事業展開に積極的にチャレンジ

平成11年７月にオープンした柏原市立健康福祉センター（通称：オアシス）。この３階に設置されているのが、柏原市ボランティアセンター。ボランティアに関する「相談・あっせん」、「研修・育成」、「広報」の３つを柱に、さまざまな活動を行っています。

登録グループ数は、現在、40。延べ1,000人のボランティアがさまざまな形で活動を行っており、なかには里山保全を通じておとなと子どもの交流活動を行っているユニークなグループも。また、アルゼンチンからボランティア研修生を受け入れたり、５年前から早くもホームページを開設するなど、独自の先駆的な取り組みを積極的に行っています。

同センターでは、同じ施設内に 訪問看護ステーションと訪問介護ステーションが併設されています。「実際に地域の訪問ケアにあたっている看護婦さんやホームヘルパーさんからのボランティア派遣の要望も多く、即座に対応できるのも当センターならでは。他ではあまり類を見ないでしょう」とコーディネーターの前川阿紀子さん。

さらに学識経験者や行政機関、地区福祉委員、民生委員、各福祉団体などが一体となり、平成13年７月から平成14年３月まで「ボランティアセンターあり方検討会」を開催。ボランティアセンターの存在とその役割を新たに市民にアピールする方策を検討中です。「最近は『総合的な学習の時間』の本格的導入で、小・中学校からの依頼も増えており、毎日、目のまわるような忙しさ。でも、高校生の子が『ボランティアを始めたいんですが…』とひとりで電話をかけて訪ねてきてくれたりすると、私たちの活動が少しずつ根づいていることが実感でき、嬉しいですね」とも前川さんは話してくださいました。



門真市ボランティアセンター

門真市御堂町14-1　門真市保健福祉センター内
TEL　06-6902-6453
FAX　06-6904-1456

幅広い分野で活動を続けるグループをサポート

門真市ボランティアセンターは、京阪「古川橋」駅より徒歩10分。市民の健康づくりと福祉を推進するための施設、門真市保健福祉センターの１階にあります。

現在、22のグループが登録されているボランティアセンターでは、手話通訳、点訳、要約筆記、高齢者や障害者との交流、環境美化…など、幅広い分野で約750名のボランティアが活躍中。取材に伺った日も、給食サービスのグループ「門真市食生活改善推進協議会（通称：五十三（いそみ）会）」の皆さんが、ひとり暮らしのお年寄りのために、センター内の調理室でお弁当を作っている最中でした。昭和53年に結成された同会は、息の長い地道な活動を続け、いまではメンバーの平均年齢が60歳を越えるとか。でも皆さん年齢を感じさせないほど、イキイキと活動しています。

ボランティアグループは、結成してから存続させるのが難かしいといわれていますが、同センターでは点訳や手話の講座を開催するなど、知識や技術的なことが必要な活動への支援に力を注いでいます。講座では、ボランティアグループの代表者が、豊富な経験を生かして講師を務めることも。「ですから、うちには活動実績の長いグループが多いんですよ」とコーディネーターの藤江冬人さん。

現状では、ボランティアを始めたいと相談にくるのは40代以上の主婦や定年退職者など、中高年層が中心。「市民の間にボランティアをもっと浸透させ、地域の幅広いニーズに応えていくには、若い人のパワーが必要だと感じています」とも藤江さん。ボランティア入門講座を開催するなど、ひとりでも多くの市民にボランティアへの関心を深めてもらおうと、積極的な活動に取り組んでいます。

北摂

豊中市社協が災害支援訓練を実施

豊中市社協では、阪神・淡路大震災の教訓を生かし、ボランティアグループ、各種団体、企業が協力し、「市社協災害支援ネットワーク」を結成しています。

今年は1月20日（日）に「災害支援訓練」を実施し、市社協と災害支援ネットワークおよびふたつの校区福祉委員会が参加して災害があったことを想定しての訓練を行いました。その内容は、消防署などの関係機関の協力による救援訓練や、市民向け啓発事業としてアニメーション映画「地球が動いた日」の上映、非常食の試食などを行い、多くの参加者がありました。

参加した市民は、「日頃忘れがちな災害への備えを再確認しました」と感想を述べていました。

第9回豊中ボランティアフェスティバル
「手と手をつないでボランティア ～これからの豊中の市民活動～」開催

去る2月17日（日）、豊中市社協ボランティア団体連絡会主催による豊中ボランティアフェスティバルが開催され、1500人の参加がありました。

ステージでは、市内で活躍中のボランティアをパネラーとしたリレートークや手話コーラス、車椅子ダンスなどがにぎやかに披露されました。また、会場全体で、ファミリーボランティア体験スタンプラリーを開催し、たくさんの親子連れが手話や点字、車椅子体験に参加していました。

最後に参加者みんなで、これからも「手と手をつないでボランティア」の気持ちを大切に、活動の輪を広げていこうと気持ちをひとつにし、閉会しました。

河北

第4回ラポールふくしフェスティバル

春分の日の3月21日、枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）において「第4回ラポールふくしフェスティバル」が開催されました。当日は玄関前「円形広場」でのミニステージプログラムをはじめ、リサイクルバザー、アニメ『どんぐりの家』（重度重複障害児と家族が地域で自立していく実話をえがいた感動作）の上映、またボランティア活動紹介・相談コーナー、福祉機器展示コーナーなど多彩な催しがくり広げられました。

昨年の秋から準備を進めてきたこの催しですが、枚方市ボランティアグループ連絡会が主体となり企画実行委員会を設け、企画から当日の運営まで全面協力。当日は各グループの活動紹介はもちろん、市民ボランティアの皆さんと一緒になって案内や誘導、進行管理などの役割を担いました。

とくに今回はミニステージの充実を図ろうと、和太鼓演奏やジャグリング、いきいき歌体操や朗読劇などが披露され、一方の、ときに行列ができるほどの、できたてのお餅や、たこ焼き、焼そばの店などの模擬店などと共に人気を集めました。

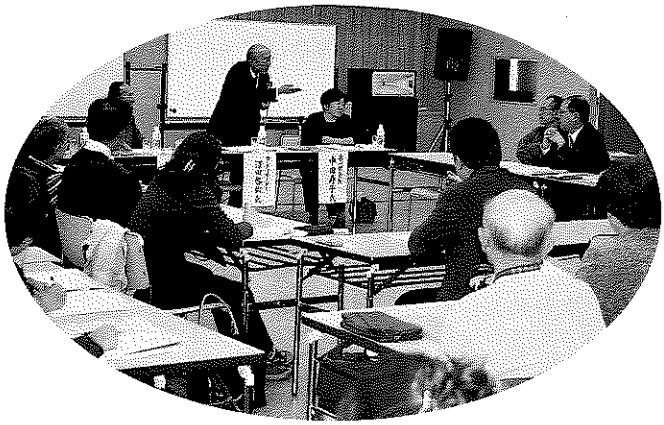
またボランティアコーナーでは、連絡会のメンバーがスタンプラリー、伝承玩具、自助具や手づくり介護用品の展示、車いす体験やインスタントシニアのコーナーなどで、市民にボランティア活動を呼びかけました。風が強く、ときおり小雨がパラつきましたが、市民パワーで盛り上げた楽しい春の一日となりました。

河南

河内長野市ボランティア活動推進委員会、2年目の試み

昨年は"ボランティアフェスティバル"と題して、河内長野市内のボランティアグループ66団体が始めての交流を行ない、お互いに存在については確認できたのですが、施設が狭すぎたり、同時進行の出し物の山が重なったりで、一部に混乱も見られました。

これではならじと今年は分散型の行事とし、特に市民との接点を求める試みをしました。2月始めから2週間は、各団体のポスター展示を市役所のロビー（市民サロン）で開催。2月17日（日）には映画「ホーム・スイートホーム」の上映会とポスターの展示、翌18日（月）に「映画を観賞しての座談会」という趣向です。映画の観客は満席の約900人、ポスター展示にも500人ほどの入場があり、座談会での約50名の熱心な意見交換をあわせて、主催者としては、まずまずの成果があったと評価しています。特に、映画上映前の短時間、清教学園高校インターアクトクラブが自作自演で、PCプロジェクターで推進委員会の事業を紹介するプレゼンテーションをして、とても好評でした。



なにしろ、環境保全、国際交流、子ども、福祉、文化芸術など、さまざまな活動を展開している72グループが、総合的なボランティア活動の活性化を目指して行政当局と協働しようというのですから意思統一も大変なのですが、回を重ねるうちにお互いの活動の違いも理解しあい、協力して企画を次第にふくらませていくリズムができたようです。

福祉ボランティアグループとしても、幅広い人間関係の構築に大きな力となるのではと期待し、今後もこの事業に協力を続けたいと考えています。

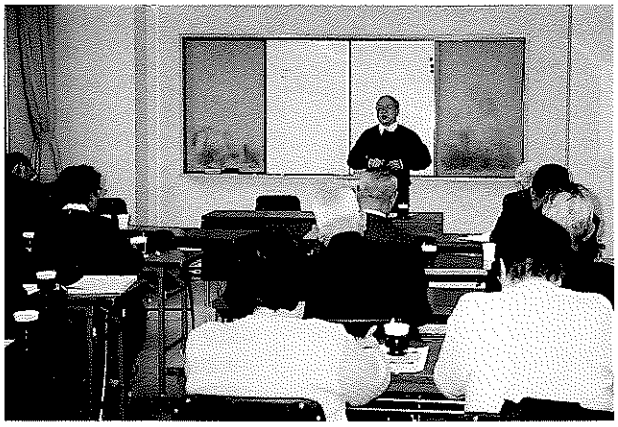
泉州

「ボランティアセンターの名称変更と今後の方向」講演会開催

高石市ボランティアセンターでは、去る2月22日（金）、大阪府ボランティア・市民活動センターの森茂輝所長をお招きし、「ボランティアセンターの名称変更と今後の方向」をテーマにご講演いただきました。

朝から小雨の降るなか、高石市社会福祉協議会理事とボランティアセンター推進協議会委員の方々が出席し、森所長のわかりやすく、ときには笑いを交えた楽しい話に全員が聞き入りました。

今回の講演で、これからのボランティアセンターは、さまざまな市民活動等を支援していくためにも、ボランティアセンターの情報をより多くの人に提供し、地域の人々と一緒に考え、一緒につくっていかなければならないということ。そして誰もが気軽に立ち寄ることができ、コーヒーを飲みながらおしゃべりし、心安らぐことができる場所――それがボランティアセンターであるということなど、短い時間のなかで今後の参考とすべきことを学ぶことができました。



3 小5の知的障害の女の子の遊び相手募集

活動内容：知的障害（自閉症）のある女の子の遊び相手、話し相手になってくれるお姉さんを求めています。
日　　時：火曜　15:30～17:30
場　　所：自宅近くの学童保育所、図書館など（大阪府吹田市）
沿　　線：JR東海道線　吹田駅　徒歩10分
募集対象：専門学校生・短大生・大学生、成人（概ね10～20歳代）の女性
定　　員：1名（定員になり次第締切り）
費　　用：交通費支給（1000円まで）
問合せ先：TEL 06-6357-5741　FAX 06-6358-2892
E-mail minami@ovn.gr.jp
（福）大阪ボランティア協会（担当／南）
＊まずは、女の子に会ってみてください。よろしくお願いします。

4 環境学習・実習実践講座に参加しませんか

活動内容：ワークショップ形式で日常生活と身近な環境、そして世界とのつながりについて考えます。講師は市川智史氏（滋賀大学教育学部附属環境教育湖沼実習センター助教授）。
日　　時：4月20日（土）10:30～15:30（休憩1時間）
場　　所：環境学習センター「生き生き地球館」別館2階研修室（大阪市鶴見区緑地公園2-135）
沿　　線：地下鉄長堀鶴見緑地線　鶴見緑地駅　徒歩5分
募集対象：関心のある大人の方30名
費　　用：参加費無料
持ち物：お弁当・お茶
問合せ先：TEL 06-6915-5801　FAX 06-6915-5805
大阪市立環境学習センター「生き生き地球館」
＊申込み方法：往復ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号、返信用宛先に住所・氏名をご記入の上、「環境学習センター環境実習講座係」まで（申込締切：4月8日）。

5 大阪北生協の情報を音訳する仲間を募集中！

活動内容：大阪北生協の組合員の助け合い活動。文章を明確に正確に音読できる人を求めています。
日　　時：毎月第1・3月曜日　13:30～15:30
場　　所：コープ島本（三島郡島本町青葉1-2-10）
沿　　線：阪急京都線　水瀬駅　徒歩5分
募集対象：成人(概ね30～50歳代)
問合せ先：TEL 06-6846-0231　FAX 06-6846-4498
大阪北生協　組合員活動部
＊詳細は、お気軽にお問合せ下さい。

Vクリッピングボード

ボランティアをやってみたい！
そんなあなたに耳寄りな情報満載

〈ご利用にあたって〉
ボランティア活動へ参加を希望される方は、事前に各団体にお問い合せの上、条件等を話し合ってから、参加してください。
●このコーナーに記載の情報はホームページでもご覧になれます。
http://www.ovn.gr.jp/

1 子どもたちに手作りの紙芝居を上演しています

活動内容：定期的には毎月1回ずつ図書館で、臨時には病院や公民館などで紙芝居やパネルシアターなどを上演しています。チラシづくりや配布、紙芝居・パネルシアターなどの制作や上演、当日の運営や観に来てくださる方々を求めています。
日　　時：第3・4日曜日　14:00～15:00
場　　所：①東大阪市立花園図書館（東大阪市吉田4-7-20）
②東大阪市立旭町図書館（東大阪市旭町1-1）など
沿　　線：①近鉄奈良線　東花園駅　徒歩15分
②近鉄奈良線　瓢箪山駅　徒歩5分
募集対象：小学生以上（概ね10～50歳代）、初心者歓迎
費　　用：交通費自己負担
問合せ先：TEL 0729-88-0275　FAX 0729-88-0275
E-MAIL cpaoz307@htc.zaq.ne.jp
かみしばい会（担当／岡村　理）

2 民間デイサービスで気軽に手伝ってくださる方を募集します

活動内容：高齢者や障害者の民間デイサービスでのボランティア
日　　時：月、火、水、土、日曜日（木・金休み）、10:00～15:00の間でご都合のいい時間
場　　所：民間デイサービス「きらく会」
沿　　線：JR東西線　長尾駅　徒歩15分、京阪本線　枚方市駅　バス30分
募集対象：活動を理解してくださる方。初心者、親子での参加も歓迎
費　　用：交通費自己負担
問合せ先：TEL／FAX　072-836-6006
民間デイサービス「きらく会」（担当／平田）
＊障害者や高齢者が集い、おしゃべりにゲームに食事にと「楽しく」「気楽に」過ごしていただく民間デイサービスです。運営は活動に賛同する有志とボランティアで行っています。

7 障害者や高齢者の話し相手になってくれる人を募集

活動内容：障害者や高齢者などの話し相手になり、心のケアをしてあげてください。
日　　時：相談の上、ご都合に合わせます
場　　所：ボランティア心のケアー推進協会（大阪市西成区岸里1-7-21　プライム岸里103）
沿　　線：南海電鉄　天下茶屋駅　徒歩13分、阪堺電軌阪堺線　聖天坂駅　徒歩1分
募集対象：関心のある方ならどなたでも
問合せ先：TEL 06-6658-3452　FAX 06-6658-3452
ボランティア心のケアー推進協会（担当／加古英雄）
＊活動の企画運営に協力してくださる方も募集中。

6 心地良い春！　子どもたちと一緒に童心に返ってみませんか？

活動内容：障害のある子もない子も一緒に遊ぶお手伝い
日　　時：4月21日（木）9:30～17:00
場　　所：深北緑地（大東市深野北4-284）
沿　　線：JR環状線　京橋駅　徒歩1分、地下鉄長堀鶴見緑地線　京橋駅　徒歩2分、京阪本線　京橋駅　徒歩1分
＊集合は、京橋駅のからくり時計前です。
募集対象：高校生以上。初心者、グループでの参加歓迎
費　　用：交通費自己負担
問合せ先：TEL 06-6717-7301　FAX 06-6717-7302
コリアボランティア協会（担当／伊勢木靖子）
申込締切日：4月21日（当日参加可）

情報コーナー

■羽曳野市ボランティア連絡会バザー開催

日時　4月21日（日）14時～16時
会場　LICはびきの　アトリウム（1階）
対象品　未使用品に限る（生鮮食品、本、古着は対象外）
受付　4月1日（月）～19日（金）9時～17時
ボランティアセンター（市役所別館）にて
※ご希望の方は、地域のボランティアさんが車で取りにうかがいます。
問合せ　羽曳野市社会福祉協議会　羽曳野市ボランティア連絡会
TEL　0729（58）2315
※バザーの売上金は、5月25日（土）LICはびきのにて行われる講演会「地球のステージ」の費用にあてさせて頂きます。

■第9回ボランティアの集い「みんな集まれボランティア」

日時　4月29日（月・祝）10時30分～15時
場所　茨木市役所前中央公園北グラウンド
内容　模擬店、ミニコンサート、各種体験コーナー、ボランティア相談など
主催　茨木市ボランティアセンター
問合せ　茨木市ボランティアセンター
TEL　0726（27）0033
※当日協力してくださるボランティアさんも募集しています。

■「地球のステージ」

1996年より始められた世界の紛争、貧困地域の人々の姿を知ろうというIVY（国際ボランティアセンター山形）が企画している開発教育プログラム。ビデオやスライド、大スクリーンによる映像と音楽で、困難な中にあっても、決して悲惨な姿ではなく、逞しく生きる子どもたちの姿を語りと音楽にのせて伝えます。

日時　5月25日（土）　開場　13時30分　開演　14時
会場　LICはびきの　ホールM
入場料　無料
出演者　国際ボランティアセンター山形代表理事／精神科医　桑山紀彦氏
問合せ　羽曳野市社会福祉協議会　羽曳野市ボランティア連絡会
TEL　0729（58）2315

■第9回共生・共走リレーマラソン開催

「共に生きる」ということをテーマに、障害の有無にかかわらず参加できるマラソン大会を今年も開催します。スピードを競わないので、車いすや杖を使用している方でも参加可能。もちろん伴走者についていただいても構いません。小さいお子さんも一緒に走ってください。

日時　5月26日（日）
場所　鶴見緑地花博記念公園（地下鉄鶴見緑地線「鶴見緑地」駅下車）
※この大会を手伝ってくださるボランティアさんも募集しています（高校生以上）。
・5月25日（土）機材搬入などの準備
・5月26日（日）コース警備、出店・フリーマーケット、周回チェックの手伝い
・5月27日（月）機材搬出などの後片づけ
※食事・交通費（500円まで）・当日のボランティアのみTシャツ支給。
問合せ　大阪障害者労働センター・マツサクぐるーぷ
TEL　06（6791）2212

■高齢者の散歩、通院、買物に同行してくださるボランティア募集

内容　在宅高齢者の外出介助です。
日時　月曜日～日曜日　外出の依頼の内容により、活動可能な曜日及び時間
募集対象　専門学校生・短大生・大学生・成人
問合せ　高齢者外出介助の会
TEL・FAX
06（6764）4002

ボランティアおおさか 第28号
2002年 SPRING
発行／（福）大阪府社会福祉協議会 大阪府ボランティア・市民活動センター 〒542-0065 大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内 TEL 06（6762）9631 FAX 06（6762）9679

ボランティア・市民活動保険のごあんない

取扱保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

ボランティア活動中の事故に備えて
ボランティア保険

補償内容

ボランティアがボランティア活動中に、①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。

補償金額

			Bプラン	Cプラン（天災担保）
損害部分	ボランティア本人のケガ		死亡・後遺障害 2157.5万円	死亡・後遺障害 1060万円
			入院（1日あたり）8,700円	入院（1日あたり）5,900円
			通院（1日あたり）5,600円	通院（1日あたり）3,800円
			手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
		特定感染症	補償します	補償します
		天災	×	補償します
賠償部分	対人		対人、対物共通 最高 4億円	対人、対物共通 最高 4億円
	対物			
見舞金	死亡	本人の死亡	死亡 30万円	死亡 30万円

掛金

ボランティア1名 年間（中途加入でも同じ）	
500円	700円

加入できる人や対象となる活動

・無償であること（交通費、食事代など除く）
・自助活動ではないこと
・活動のための会議や、往復途上も含む

保険有効期間

毎年4月1日から翌年3月31日まで
（中途加入の場合は受付日の翌日から）

各種イベント参加者の補償に
ボランティア・市民活動行事保険

補償内容

ボランティア団体や各種の市民団体が主催する行事の参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または参加者が第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。

補償金額

			Ⅰ型（宿泊なし）	Ⅱ型（宿泊あり）
損害部分	参加者本人のケガ		死亡 500万円	
			後遺障害 15～500万円	
			入院（1日あたり） 3,000円	
			通院（1日あたり） 2,000円	
			手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
賠償部分	対人		1名あたり 最高1億円 1事故あたり 最高2億円	
	対物		1事故あたり 最高500万円	
見舞金	死亡	本人の死亡		

掛金

	Ⅰ型	Ⅱ型			
A区分	30円	1泊2日	248円	4泊5日	328円
B区分	128円	2泊3日	256円	5泊6日	336円
C区分	251円	3泊4日	264円	6泊7日	344円

加入できる人や対象となる活動

ボランティア団体や市民団体が主催する行事
（スポーツ活動や自助活動も含む）

保険有効期間

行事期間中
（開催1週間前までに受付が必要）

各種NPO団体等の活動に
非営利・有償活動団体保険

補償内容

ボランティア保険の対象外で、有償活動を行う団体が活動中に、①スタッフが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②利用者などの身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。

補償金額

			Aプラン	Bプラン
損害部分	参加者本人のケガ		死亡 202万円	死亡 500万円
			後遺障害 6～202万円	後遺障害 15～500万円
			入院（1日あたり） 3,000円	
			通院（1日あたり） 2,000円	
			手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
賠償部分	対人		1名あたり 1億円 1事故あたり 2億円	
	対物		500万円	
見舞金	死亡	本人の死亡		

掛金

Aプラン	Bプラン
4,900円	6,300円

加入できる人や対象となる活動

営利目的ではないが利用者から実費を越える報酬を得ている活動、団体

保険有効期間

毎年4月1日から翌年3月31日まで
（中途加入者は翌々月1日～）

移送サービス活動に
移送中事故傷害保険

補償内容

移送サービス事業の活動中に、車輌に搭乗中の加入者や利用者がケガをした場合、実施主体の責任の有無に関係なく補償します。

補償金額

			Ⅰ型（車輌特定）	Ⅱ型（車輌不特定）
損害部分	参加者本人のケガ		死亡 2,260万円	死亡 1,923万円
			後遺障害 79.8～2,660万円	後遺障害 57.7～1,923万円
			入院（1日あたり） 3,000円	
			通院（1日あたり） 2,000円	
			手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
賠償部分	対人			
	対物			
見舞金	死亡	本人の死亡		

掛金

Ⅰ型	Ⅱ型
2,000円（車定員1名あたり）	2,000円（記名利用者1名あたり）

加入できる人や対象となる活動

移送サービスを実施するサービス実施主体の運転者、同乗のスタッフがその利用者

保険有効期間

毎年4月1日から翌年3月31日まで
（中途加入者は翌々月1日～）

市町村の社会福祉協議会へ保険料とともにお申し込みください

三井住友海上火災保険株式会社

ホームページ www.ms-ins.com カスタマーセンター 0120-63-2277 携帯電話・PHSからはTEL.03-3615-3111
受付時間 平日9:15～20:00 土日祝日9:15～17:00